

2019 年秋の研修会 in 熊本への意見・感想 (一部抜粋)

園巡り 1コース

福岡の自然を感じながら子ども達の過ごしている様子や様々な園舎、周辺の環境がある中での保育の工夫など見たり聞いたりさせていただきました。温かみのある開放的で素敵な園舎に感動しました。

バスの中で(園の沿革など)説明もあり背景とともに見学させていただきました。

様々な困難を保護者職員と力を合わせ前に進んできた話はとても良かった。

2園とも認可保育園として頑張っているところを見てうれしく思いました。

こばと保育園は学童も認可園と同じ敷地内にあり、自分にとっては理想の形です。

高取保育園は自然に囲まれとても開放感がありました。本棚に斎藤先生からいただいたとりのぬいぐるみを見つけてとてもうれしく思いました。

園巡り 2コース

どの園も開放感があって気持ちよかった。園の環境がよく子どもたちが毎日通うのが楽しみになるようだった。

園庭で好きな遊びを見つけて遊んでいる子供たちの姿が印象的でした。

散歩コースを見ることができ良かった。

自然を生かした園舎や保育の様子を見て参考になりました。自園の環境づくりに生かしていきたい。

水俣視察と2講演・水俣病訴訟団の話

現地視察で現場を見て、ガイドの弁護士さんの説明を受けていたので、講演の内容がよく理解できた。

とても勉強になりました。知らなかったことが多く、無知って怖いことだと実感しました。自分自身、生きること、育てることにもっとアンテナを張り少しでも気になることは勉強していきたい。

水俣病について社会科で学んだ過去の出来事のように安易に考えていた自分が恥ずかしくなった。

水俣は過去の出来事ではなく、今も続いていることを自分のこととして考えることができました。社会の中で見捨てられた命、学ばなければ風化されてはいけない。学んだことを自分の言葉で発信していかなければと思う。「人権は自分が立ち上がらなければ守れない」この言葉を自園で学習したい。社会の仕組みを学び今の社会の弊害についてみんなで考えていきたい。まだ終わらない水俣病について伝えていきたい。

原告の方の話はリアルで深く受け止めることができた。

きれいになっている公園の下に埋もれている水銀を含んだヘドロはそのままなので今後の

ことも心配です。

被害を受けた側ではなく、加害の側にいた人々の想いは現在どうなのか気になった。

胎児性水俣病で生みたくても生まれたくても生まれることがなかった命があったとのお話で、命の重みを改めて感じ、考えることができました。話を聞いたときはいろいろと感じる事ができるがその時だけに終わらず、どうしたら次につなげていけるか、自分の言葉で伝えていきたい。

水俣病被害を契機に母子手帳に水銀摂取の注意が記載されていることを初めて知りました。

水俣病の他にも、地球温暖化、原子力発電被災など子供たちの環境や平和を守るには何ができるか学んでいきたい。

講演 「子どもの睡眠と覚醒リズムの形成と心身の発達」(1) (2)

自閉症などの発達障害と睡眠は切っても切り離せないので、睡眠の見直しをすることで障害の状態が少なくなっていくという話が印象に残った。

保護者へ日々生活リズムの大切さを伝え続けている。この講演で改めて生きる力を育むためには欠くことができないことがよく分かった。メラトニン治療についてもう少し具体的に聞きたかった。

ここでも胎児からの子育てを考えさせられました。母体が健康でなければ子どもたちは発達しにくい。

眠れる子供でいられることが困難な時代ですが、乳幼児期の早い段階で眠れない原因を紐解いていくことができるように保育士としてアドバイスできるよう努力したい。

夜泣きや寝つきが悪いと悩んでいる親が多いのでタイムリーなお話でした。子供が泣いて起きてきても触れてはいけないということは驚きでした。

体内時計をしっかり作っていくことなどわかりやすく聞きました。園に戻り保護者に伝えたい。

赤ちゃんの夜間の授乳が多く悩む保護者がいるが、それが睡眠障害であり、のちに様々な問題になるというのは大変参考になった。

生後4ヶ月頃には夜間断乳をしても良く、その必要性を母親に根拠をもって伝えていきたい。

睡眠を妨げることは虐待になる。20年後の日本の状況についても警鐘を鳴らされている。スマホゲームはメラトニンの分泌を妨げ、朝起きるときのホルモン分泌も妨げる。若者の睡眠不足が慢性化している。大切なことは家族の生活リズムを全員で作ること。

自分自身睡眠の大切さを身をもって感じたことがあるが、ただ10時間(長く)睡眠をとればよいのではなくリズムをそろえることが大事だとよくわかりました。

バンブーオーケストラ

自然な音色が合わさって、とても癒されました。素敵な演奏でした。

以上